

各関係機関・団体長 様

愛媛県病害虫防除所長

病害虫防除技術情報（第 8 号）の送付について

このことについて、次のとおりお知らせしますので、御参照の上、防除指導方よろしくお願ひいたします。

記

1 情報の内容 タマネギべと病の防除の徹底について

2 現状と今後の予想

- (1) 3 月上旬に県下 126 ほ場で広域調査を行ったところ、多発につながる越年罹病株（写真 1）の発生を確認し、一部で多発するなど、中予地域での発生が目立っていた（表 1）。
- (2) 越年罹病株上に分生子が形成され、二次感染による発病も認められる圃場があった（写真 2， 3）。

表 1 各地域におけるタマネギべと病の越年罹病株の発生状況

地域	調査ほ場数	発生ほ場数	発生ほ場率 (%)
東予	38	0	0
中予	52	11	21.2
南予	36	3	8.3
計	126	14	11.1

3 本病の特徴

- (1) 被害葉などの残渣とともに土壤中に残存するべと病菌の卵孢子（耐久体）が、秋頃に苗床または本圃で感染する（一次伝染）。枯死せず残った株は菌糸が全身に蔓延し、株全体が黄化して葉が湾曲した越年罹病株となる（写真 1）。
- (2) 気温の上昇に伴い越年罹病株上に分生子が形成され（写真 2）、風雨によって飛散し、周囲の株に感染拡大（二次伝染）し、発病株（写真 3）が増加する。
- (3) 発病適温は 15℃前後であり、タマネギ球の肥大に伴い感受性が高まり、曇雨天が続くと急速に病勢が進展する。

4 防除上の注意

- (1) ほ場全体をよく観察し、越年罹病株を早期に抜き取ることが重要である。作業は晴天時に行い、抜き取った株はほ場外に持ち出して適切に処分する。
- (2) 病斑上には既に分生子が形成され、飛散も始まっていることを考慮し、抜き取り後に治療効果のある薬剤を散布する。また、発生を確認してない圃場でも予防的に薬剤散布を行う。耐性菌の発生を防ぐため、同一系統の（FRAC コードが同じ）薬剤の連用は避ける（表 2）。
- (3) ほ場内の滞水は発病を助長するため、排水に努める。



写真1 越年罹病株



写真2 分生子の形成



写真3 二次伝染による発病

表2 タマネギベと病に対する主な防除薬剤

薬剤名	系統名 FRACコード	希釈倍率	使用時期	使用回数
ダコニール1000	M5	1,000倍	収穫7日前まで	6回以内
ジマンダイセン水和剤	M3	400~600倍	収穫3日前まで	5回以内
ペンコゼブ水和剤	M3	400~600倍	収穫3日前まで	5回以内
アミスターオプティフロアブル	11+M5	1,000倍	収穫7日前まで	4回以内
シグナムWDG	11+7	1,500倍	収穫7日前まで	3回以内
ランマンフロアブル	21	2,000倍	収穫7日前まで	4回以内
ドーシヤスフロアブル	21+M5	1,000倍	収穫7日前まで	4回以内
フロンサイドSC	29	1,000~2,000倍	収穫3日前まで	5回以内
フェスティバルM水和剤	40+M3	750~1,000倍	収穫7日前まで	3回以内
フェスティバルC水和剤	40+M1	600~800倍	収穫7日前まで	3回以内
※ダイナモ顆粒水和剤	21+27	2,000倍	収穫3日前まで	3回以内
※ホライズンドライフロアブル	27+11	2,500倍	収穫3日前まで	3回以内
※メジャーフロアブル	11	2,000倍	収穫前日まで	3回以内
※リドミルゴールドMZ	4+M3	1,000倍	収穫7日前まで	3回以内
※フォリオゴールド	4+M5	800~1,000倍	収穫7日前まで	3回以内
※プロポーズ顆粒水和剤	40+M5	1,000倍	収穫7日前まで	3回以内
※カンパネラ水和剤	40+M3	750倍	収穫7日前まで	3回以内
※リドミル銅水和剤	M1+4	400~600倍	収穫7日前まで	3回以内
※ベトファイター顆粒水和剤	27+40	2,000倍	収穫7日前まで	3回以内
※ジャストフィットフロアブル	43+40	3,000倍	収穫7日前まで	3回以内
※レーバスフロアブル	40	2,000倍	収穫前日まで	2回以内
※ザンプロDMフロアブル	45+40	1,500~2,000倍	収穫7日前まで	3回以内

※は治療効果のある薬剤を示す。

耐性菌の発生を防ぐため、同一系統（FRACコードが同じ）の薬剤の連用は避ける。

FRACコード：世界農業工業連盟参加のFRAC（殺菌剤耐性菌対策委員会）により作成された殺菌剤の作用機構ごとの分類コード。